

季刊

社会福祉法人
名古屋市総合リハビリテーション事業団

オレンジロード

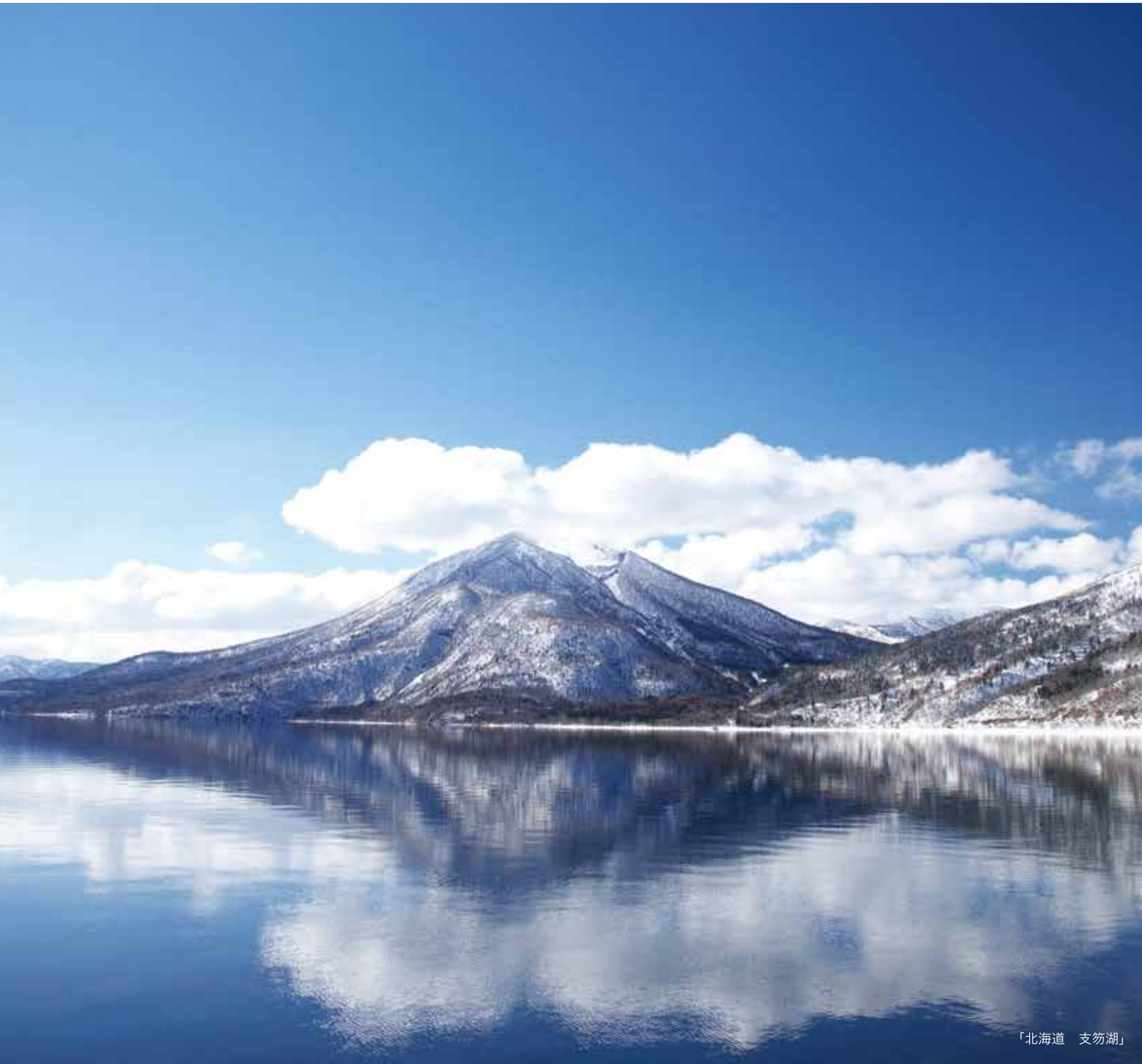
ORANGE
ROAD

2017年
冬号
vol.12

INDEX

- ◆ スポセンわくわくフェスティバル2016
- ◆ 自立支援部及び
高次脳機能障害支援説明会
- ◆ 居場所・サロン事業報告（12月・1月）
- ◆ 平成28年度 業務研究等事業の中間報告
- ◆ イベント情報
- ◆ 募集・事業所案内

発行：季刊オレンジロード編集委員会



イベント報告

スポセンわくわくフェスティバル2016

平成28年12月4日（日）に名古屋市障害者スポーツセンターで「スポセンわくわくフェスティバル2016」を開催しました。

体育室のメインステージでは、オープニングの高針台中学校合唱部の合唱とハンドベル演奏から始まり、白水保育園&ファミリーキッズダンスのダンス、愛知淑徳大学の学生サークルFsus4（サスフォー）のバンド演奏、和太鼓演奏や社交ダンス、ゲームやクリスマスプレゼント配布などが行われました。また、体育室には実行委員による屋台もあり、多くの屋台で売り切れが出てしまうほどの人気で、フェスティバルを大変活気づけてくれました。



昨年度から始めたスタンプラリーも開催しました。今年度は1階のメインステージ、屋台、餅つき、2階の障害者スポーツ体験コーナーや介助犬工作ブース、バルーンアートコーナーにスタンプを設置して、来場者に回ってもらうようにしました。メイン会場である1階の体育室だけでなく、2階にも常に多くの来場者に来てもらうことができ、大変盛り上がりました。

今回も多くの方に来場してもらえたことで、このフェスティバルが名古屋市障害者スポーツセンターを知っていただくきっかけになり、地域の方々との交流もより深められたと感じています。

フェスティバルの会場設営や飾り付け、イベント・屋台の手伝いなどに協力していただいたボランティアや関係者の皆さま、ありがとうございました。



自立支援部及び 高次脳機能障害支援 説明会

第1回・第2回



平成28年11月2日（水）（第1回）と平成28年12月14日（水）（第2回）に、名古屋市総合リハビリテーションセンターで「自立支援部及び高次脳機能障害支援説明会」を開催しました。

今年度も例年同様、受付開始前から参加申し込みのFAXが続々と届くなど、回を重ねても衰えない当センターへの期待の高さを実感しました。

第1回、第2回ともに、機器のトラブル等はありませんでしたが、スライドを使用した説明から各課の見学まで滞りなく実施することができました。

参加者アンケートでは「事例の説明が分かりやすくてよかった」「施設見学での丁寧な説明が大変よかった」などの声をいただきました。職員からは課題として、分かりやすい事例を入れることで聞き手側の理解促進を図ることや、参加者同士で交流する機会を設けることで、地域の関係者がつながる場にする等を検討していくことが挙げられました。

今後も、地域の事業所や医療機関などの支援者に当センターの役割を的確に知っていただくため、このような説明会を大切にしていきたいと考えています。



居場所・サロン事業報告



12月 あなたは大丈夫？ ロコモティブシンドローム



平成28年12月2日（金）に福祉スポーツセンターで、社会貢献活動である居場所・サロン事業「あなたは大丈夫？ ロコモティブシンドローム」を開催しました。今回は、福祉スポーツセンターが行うスポーツ教室と共同開催という形で行いました。定員は18名でしたが、申込受付開始後すぐに満員となりました。

今回は①立ち上がりテストと2ステップテスト（歩幅計測）・ロコモ25（25項目の質問）からのロコモ度チェック②保健師による講話③体育指導員によるストレッチ等の実技（計2時間）という内容でした。

ロコモティブシンドローム（略称ロコモ）とは、骨・関節・筋肉等の運動器の機能が衰えることにより「立つ」「歩く」という移動機能が低下している状態、いわゆる足腰が弱った状態といわれます。今回の立ち上がりテストでは、40センチの高さの椅子に座って片脚で立ち上がれないとロコモ度1、20センチの高さでは両脚で立ち上がれないとロコモ度2、というテストを実施しました。

講話は、ロコモティブシンドロームの原因、予防や改善のための生活習慣（食事、運動、生活環境）を中心に内容で、実技は椅子に座ってできる運動や脳トレ体操などを行いました。

参加者の中には、日頃から運動をしている方や足腰に痛みを抱えている方もいましたが、それぞれが無理のない範囲で楽しんでいました。スポーツ教室後の相談会では、皆でお茶やカルシウム菓子などを味わいながら日頃の食事や栄養に関する話をしました。今後も地域にお住まいの皆様のお役に立てるよう、楽しんでいただきながらさまざまな相談を受けしていきたいと考えています。



転倒予防 転ばぬ先の、チエ?!

1月

平成29年1月10日(火)に、名古屋市総合リハビリテーションセンターで、居場所・サロン事業「転倒予防 転ばぬ先の、チエ?!」を開催しました。年明け早々の企画でしたが、普段から健康維持に関心の高い14名の方の参加がありました。会場では、骨折予防グッズのプロテクター入りのバンドや歩行時のサポート機能のある靴等、福祉用具の展示も行いました。



第一部では当センターの理学療法士が講師となり、転倒の原因となる3つのキーワード（「フレイル」「サルコペニア」「MCI（軽度認知症）」）についてお話ししました。その後、参加者の皆さんに、キーワードに添ってリスクチェックをしていただきました。チェック項目の内容に該当すると参加者から「あー！」「これは大丈夫」などの声が飛び交い、高齢になることで転倒リスクが高まること、健康寿命を延ばすためにも予防対策が大切なことを改めて理解していただけたと感じました。

第二部では転倒予防のための運動のポイントを踏まえ、安全に配慮した着座姿勢でのストレッチ、筋トレ、認知と運動課題を体験していただきました。講師のアドバイス通りに運動すると、定期的に運動をしている参加者でも、単純な動作で体が温まったり筋肉が疲労したりするのを実感しているようでした。また、参加者の皆さんが「これはむずかしいよねー！」と共感し合ったり「できた、すばらしい!!」とお互いを褒め合ったりして、楽しんで運動している姿が印象的でした。

体操後の質疑応答の時間には、ご自身の骨折体験についてお話があったり、転倒後の安静による体力低下などの弊害予防への質問があるなど、改めて講義内容への関心の高さを感じました。運営スタッフである職員も一緒に体操に参加させていただき、参加者の皆さんと心地よい時間を過ごすことができました。





平成28年度 業務研究等事業の中間報告

平成28年11月11日（金）に、名古屋市総合リハビリテーションセンターで、平成28年度の業務研究等事業中間報告会を行いました。報告内容の概要は以下のとおりです。

回復期脳卒中片麻痺患者におけるReoGo-Jを使用した上肢リハビリテーションの安全性および有用性の検討

作業療法科 庵本 直矢

脳卒中片麻痺患者10名に対し、通常の作業療法訓練に加えて上肢用ロボット型運動訓練装置ReoGo-J（帝人ファーマ製）を用いた自主訓練を行い、その効果を検証している。対象者が5名であるため、他の文献との比較をメインとした統計解析となる予定である。

脳卒中者に対する無動力歩行支援機ACSIVEの有用性の検討

西部リハビリテーション事業所
石黒 正樹

無動力歩行支援機ACSIVE（今仙技術研究所製）を要支援脳卒中者10名に装着し、未装着時との比較を行っている。現在の課題として、加速度、角速度の数値解析は解析ソフト等が必要であること、PC内蔵カメラでは、画像上で計測する関節角度の計測誤差が大きいことが挙げられる。

薬薬連携に関する調査

薬剤科 内田 裕子

外来患者の適切な薬物療法の基盤として保険薬局との連携が重要であると考えられるため、保険薬局に対する残薬管理に関する質問調査から、疑義照会等の連携方法を探っている。記名調査の回答率が低いこと、保険薬局利用患者が残薬を医師に知られることに抵抗感があるため実態の把握が困難なことが課題として挙げられる。

入院患者に対し、居宅を訪問して理学療法を実施する時期についての検討

理学療法科 辻 朋浩

医療機関外での訓練も診療報酬の算定対象となったことから、入院期間中に居宅でリハビリを実施し、その後の訓練等の内容を検討するタイミングと、その効果について検証している。入院から1カ月以内に居宅訪問できた例が1例しかなく、リスク管理、移動手段の確保等、実施までの調整に時間がかかることが分かった。

下肢ボツリヌス療法での理学療法介入方法の違いが下肢機能・歩行能力に与える影響 ～異なった2種の理学療法による比較検討～

理学療法科 戸田 海渉

下肢に対するボツリヌス療法後の理学療法において、昨年度から他動ストレッチから運動療法を主にした訓練に変更したことから、その効果を比較している。ボツリヌス療法を行う方の傾向が異なっていたり、治療を継続しない方が出てきたりしているため、類似の症例を探して比較する必要がある。

イベント情報

第14回 名古屋市障害者スポーツ大会 (陸上競技・フライングディスク・レクリエーションの部)

日程：平成29年5月7日（日）9:30～15:00（予定）

場所：パロマ瑞穂スタジアムおよびパロマ瑞穂レクリエーション広場
(名古屋市瑞穂区山下通5-1)

参加申込は終了しましたが、興味のある方は観覧にぜひお越しください。
詳細は事業団ウェブサイトまたは下記問い合わせ先へ。

◎問い合わせ：名古屋市障害者スポーツセンター

電話：052-703-6633 FAX：052-704-8370



上記の他、大会情報は随時事業団ウェブサイトに掲載しますので、ぜひご覧ください。

障害者スポーツセンターからのお知らせ

館内床面改修工事、屋上屋根防水工事および外壁補修工事に伴う施設利用制限について

平成29年1月から平成29年3月末まで、全ての施設の利用ができません。利用者の皆さまには大変ご迷惑をお掛けしますが、工事期間中は名古屋市と連携を図り、安全第一で施設修繕を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



●前期家族介護者教室「楽しく介護のすすめ～心と体の健康講座～」

対象者：介護に関心のある方。

名古屋市内北部・東部・西部・南部・中部で実施。各4回。

◆ 東部：名古屋市障害者スポーツセンター

6/ 2（金） 快適に歩く

6/ 9（金） 転倒予防と急変時に備えて

6/16（金） 食事の工夫と調理のポイント

6/30（金） お薬うまく飲めていますか

◆ 西部：西部リハビリテーション事業所

6/24（土） 介護の準備学

7/ 1（土） 安心して暮らせる住まいの工夫

7/ 8（土） 家庭でできる細菌感染予防

7/15（土） 転ばないための運動と工夫



日時、場所、申込方法等詳細は事業団ウェブサイトまたは下記問い合わせ先へ。

◎問い合わせ：なごや福祉用具プラザ 電話：052-851-0051 FAX：052-851-0056

事業団ウェブサイト

<http://nagoya-rehab.or.jp>

事業団職員大募集

「私たちと一緒に働きませんか」

▶現在募集中

嘱託職員 介護補助、生活支援員補助、病棟業務補助

お問い合わせ先

社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団

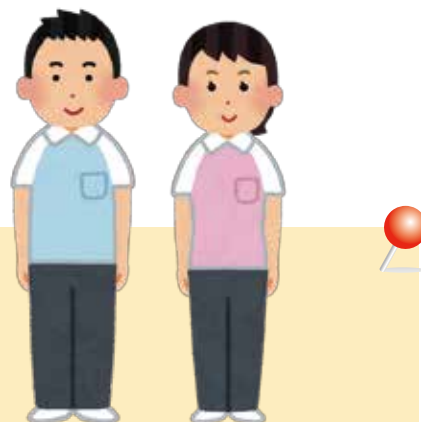
総務部総務課 採用担当

〒467-8622 名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2

電話番号 052-835-3811

最新の募集情報、待遇の詳細は事業団ウェブサイトをご参照ください。

事業団ウェブサイト <http://nagoya-rehab.or.jp>



事業所案内

・名古屋市総合リハビリテーションセンター

・福祉スポーツセンター

・障害者就労支援センター めいりは

〒467-8622

名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2

電話：052-835-3811 FAX：052-835-3745

・瑞穂区障害者基幹相談支援センター

・地域活動支援センター つきみがおか

〒467-0035 名古屋市瑞穂区弥富町月見ヶ岡5

NTT西日本八事ビル1階

電話：052-835-3848 FAX：052-835-3743

なごや福祉用具プラザ

〒466-0015

名古屋市昭和区御器所通三丁目12-1

御器所ステーションビル3F

電話：052-851-0051 FAX：052-851-0056

名古屋市障害者スポーツセンター

〒465-0055

名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地

電話：052-703-6633 FAX：052-704-8370

西部リハビリテーション事業所

〒453-0855

名古屋市中村区烏森町六丁目298番地

電話：052-486-2400 FAX：052-471-3710